

少年アベックで秋田へ！

成年男子第二代表も取れず

成年女子は愛知に屈す

岐阜県津市河芸町民の森公園グラウンドで開催された第62回国民体育大会東海地域予選会で静岡県チームは少年男女が宿敵愛知県を負かし秋田国体への出場権を獲得した。大会初日に快勝(男子 = 岐阜県に11対4の5回コールド、女子 = 三重県に5対0の完封)した少年チームは、最終日の代表決定戦で共に愛知県を破り優勝。秋田国体へのアベック出場を果たした。

なお、成年女子は愛知県に0対3の完封負け、成年男子は第二代表決定戦で三重県に1対5で破れ今年も本国体出場はならなかった。

少年男子一回戦

岐阜県 00040 4

静岡県 6311X 11

代表決定戦

愛知県 000000 0

静岡県 000603x 9

静岡県は四回裏に三塁への内野安打を機に大量6得点を挙げ、主導権をとった。さらに六回裏には興津の左翼越えの本塁打などで加点し、六回得点差によるコールド勝ちを収めた



優勝した少年男子ナイン

安部監督の談話

前半のチャンスを潰しイヤなムードだったが、山崎がよく抑えてくれた。乱打戦を予想していたので、完勝でき、最高の試合ができた。昨年は出場できず悔しい思いをしたので、一つでも多く勝って上位進出を狙いたい。

興津主将の談話

春の選抜や夏の高校総体でベスト8に入れなかったのが国体ではそれを超えて優勝したい。守備のミス無くして、チャンスでランナーを還すバッティングをしたい。

少年女子一回戦

静岡県 3010010 5
三重県 0000000 0



三重県戦で左越え本塁打を放った田中選手

田中主将の談話

一人ひとりが自分の役割をキチンとできたから優勝できた。秋田国体では声を掛け合ってチームの気持ちを一つにして、優勝を狙います。

代表決定戦

静岡県 0100000 1
愛知県 0000000 0

最少得点で静岡県が優勝し2年連続の国体出場を果たした。静岡県は二回表、ヒットを足がかりに二死、一・二塁から松下が適時打し貴重な先制点を挙げた。その後、両チームともチャンスは作るものの両投手の緩急を活かした投球と野手の堅い守りにより得点を挙げるができなかった。



優勝した少年女子ナイン

小畑監督の談話

予想通りの接戦だった。高校総体等でタイブレーカを経験していたバッテリーが踏ん張ってくれた。二回裏の満塁のピンチを凌いだのが大きかった。秋田ではより選ったチームが来るので、一戦一戦を大事に戦い、一つでも多く勝ちたい。

成年男子一回戦

岐阜県 2010103 7
静岡県 000350x 8

成年男子代表決定戦

静岡県 00000 0
愛知県 50030x 8

成年男子第二代表決定戦

静岡県 0010000 1
三重県 000500x 5

1点を追う三重県は四回裏死球とワイルドピッチに内野安打を絡めて無死一・三塁から野選にて同点とし、続く二度目のワイルドピッチで逆転。さらに連続二塁打で等で一挙5点を挙げ試合を決めた。静岡県は三回に犠飛で先制した、三重県の前田投手に散発の5安打に抑えられた。

成年女子一回戦

岐阜県 0000000 0
静岡県 120120x 6

成年女子代表決定戦

愛知県 0000021 3
静岡県 0000000 0

毎回走者を出しながら先制できなかった愛知県6回一死一・三塁から東が右翼を破るランニングホームランで2点を先取。七回にも二塁打と適時打で貴重な追加点を挙げた。静岡県も二回を除き毎回安打を放ちながら後一本が出ず完封負けを喫した。

8月18日(土)19日(日)
三重県津市河芸町民の森公園グラウンド

国体東海ブロック大会を勝ち抜き 秋田にゆこう！

秋田国体の出場を賭けて8月18日(土)、19日(日)の2日間に三重県津市河芸町民の森公園グラウンドで第28回東海ブロック大会が開催されます。静岡県から成年男子(オール清水)成年女子(静甲)少年男子(飛龍)少年女子(飛龍)の4チームが出場します。静岡県民皆さんの応援をお願いいたします。

東海ブロック大会に出場する各種別チームの選手・および意気込みを紹介いたします。

成年男子

会場=津市白塚町グラウンド

プロフィール

監督	保坂 哲也(鳥建クラブ)
投手	青木 貴春(鳥建クラブ)
	劔持 有介(駿河真和クラブ)
捕手	我妻 輝彦(鳥建クラブ)
	渡辺 周平(静 甲)
一塁手	山元 誠司(高丘クラブ)
二塁手	渡辺 哲平(鳥建クラブ)
三塁手	宮原 豊(静 甲)
遊撃手	保坂 和範(鳥建クラブ)
左翼手	良知 宏一(静 甲)
中堅手	上 和志(鳥建クラブ)
右翼手	青木 豊(鳥建クラブ)
外野手	高田 竹志(鳥建クラブ)
予備員	河合陽之介(駿河真和クラブ)
	栗田 昌洋(鳥建クラブ)
	鈴木 賀久(静 甲)

県一般男子、クラブの勝者・鳥建クラブと実業団覇者・静甲を主体にベテランと若手とでうまく編成され、主戦の青木貴春中心に堅実な守備でまとまったチーム。速球が武器の劔持は潜在能力十分の若手ホープ。攻撃面では長打力のある山元、渡辺周平、我妻を軸にどこからでも得点できる。この中軸の前に出塁することが得点能力を増す。

監督・主将の意気込みと抱負

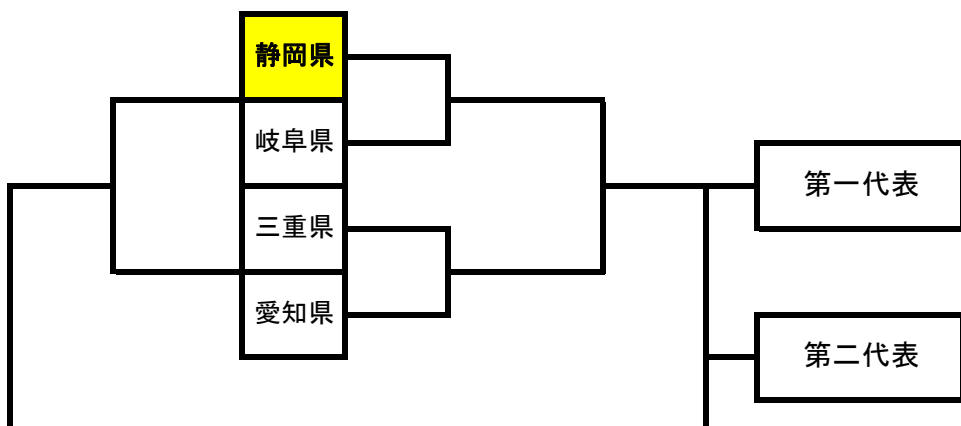
保坂監督

今日まで強化練習、東京・山梨遠征と強化試合を実施してきた。これらを通じて選手は互いが打ち解け、代表チームは選手・スタッフをはじめ万全の体制で臨む。代表選手は全国大会など数々の修羅場を乗り越えてきた実績の持ち主で全面的に信頼している。初戦は日本リーグ加盟チームや中日日本大会で優勝したチームの選手を揃えた岐阜県との対戦だが、何とか勝利し代表権を掴みたい。

上 主将

東海枠が2チームなので、何とか代表権を獲得したい。このメンバーで秋田行きたい。ここにきて選手の状態はとても良いので大丈夫。このチームなら必ずやれると信じている。

成年男子組み合わせ



成年女子 会場＝津市河芸町民の森グラウンドB

監督	三井 由香(静 甲株)
投手	東 瑠璃(静 甲株)
	鈴木 麻美(静 甲株)
捕手	関口 直美(静 甲株)
	田中 美穂(静 甲株)
一塁手	計盛志津子(静 甲株)
二塁手	尾方 栄里(静 甲株)
三塁手	大矢 留美(静 甲株)
遊撃手	鈴木 優子(静 甲株)
左翼手	前田 真美(静 甲株)
中堅手	奥村 理代(静 甲株)
右翼手	白井加奈絵(静 甲株)
内野手	松井志帆実(静 甲株)
外野手	滝 真由美(静 甲株)
予備員	田渕 未穂(静 甲株)
	福島 早苗(静 甲株)
	中村 夏美(静 甲株)

監督・主将の意気込み及び抱負

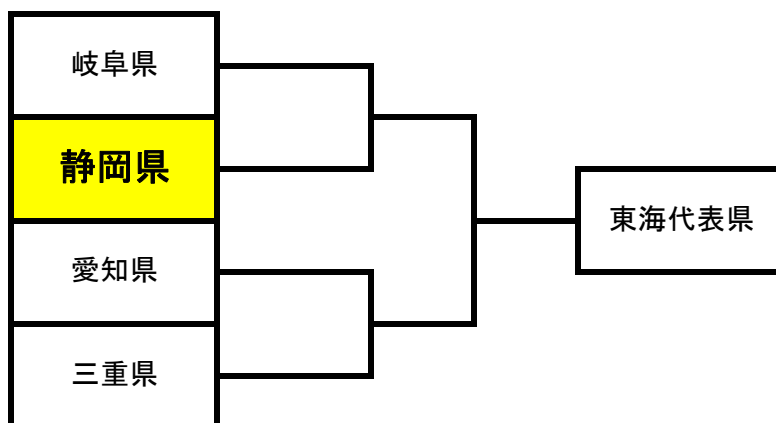
三井監督

さいたま国体(平成16年)以降、本国体の出場を逃してきた。今年は、単独今年、単独チームでの参戦なので、チームワークを武器に秋田国体出場を目指して頑張りたい。東、鈴木の両投手を中心に、打たせて取るピッチング。攻撃面では、大矢、前田、滝のチャンスメーカーが鍵になってくる。少ないチャンスを活かし、勝利を手にしたと思います。

大矢主将

静岡県代表として『一戦必勝!』。まずは、初戦の岐阜県を倒し、全員総力で本国体出場を目指します。東海ブロック予選では、チームのために打って、打って、打ちまくります。

成年女子組み合わせ



少年男子 会場＝津市河芸町民の森グラウンドA

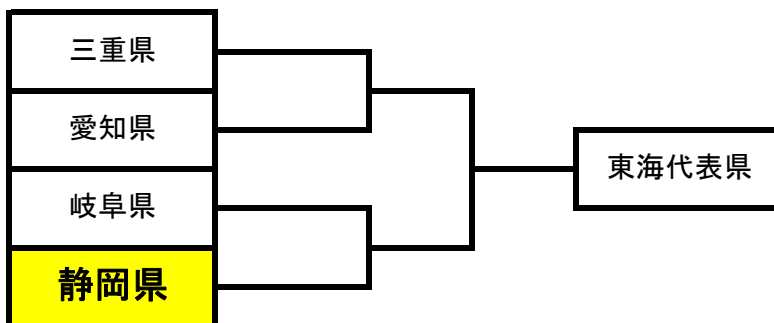
- 監督 安部 厚志(飛龍高校)
- 投手 山崎 利晃(飛龍高校)
- 捕手 興津 俊之(飛龍高校)
- 一塁手 光井 笙(飛龍高校)
- 二塁手 金刺 大地(飛龍高校)
- 三塁手 新井 俊洋(飛龍高校)
- 遊撃手 古敷谷 亮(飛龍高校)
- 左翼手 土屋 光(飛龍高校)
- 中堅手 能登部貴春(飛龍高校)
- 右翼手 久保田翔弥(飛龍高校)
- 青島 正典(飛龍高校)
- 井口 栄司(飛龍高校)
- 山崎 大亮(掛川工業)
- 予備員 片野 絢太(飛龍高校)
- 竹内 優(飛龍高校)
- 高瀬 健二(飛龍高校)

監督・主将の意気込み及び抱負

安部厚志監督

今回は例年になく打撃中心のチームとなった先頭の金指Gは出て興津が返すパターンで必勝を喫したい。投手の山崎は2年生ながら制球力があり期待できる。初戦の岐阜に勝ち決勝で愛知(豊川高校)県に勝ち本国体に出場したい。

少年男子組み合わせ



少年女子 会場＝津市河芸町民の森グラウンドC

- 監督 小畑 浩(飛龍)
- 投手 森藤 真以(飛龍)
- 捕手 田中麻里奈(飛龍)
- 一塁手 稲木亜理沙(飛龍)
- 二塁手 市川奈那美(常葉菊川)
- 三塁手 高橋 麻里(飛龍)
- 遊撃手 渥美 万奈(常葉菊川)
- 左翼手 井嶋友里恵(飛龍)
- 中堅手 松下 友里(常葉菊川)
- 右翼手 高橋沙耶香(伊豆中央)
- 岩崎 ふき(掛川東)
- 鈴木 彩水(飛龍)
- 川村 美紗(藤枝順心)
- 渡辺みつ子(飛龍)
- 予備員 増田 似奈(常葉菊川)
- 菅沼さつき(城南静岡)
- 井上 琴子(城南静岡)

監督・主将の意気込み及び抱負

小畑 宏監督

高校総体で被安打2と好投した主戦・森藤と長打力のある捕手・田中のバッテリーが安定。守備も各校選ばれた能力のある選手達なので十分やれる。

攻撃陣は田中・高橋麻里、高橋沙耶香・渥美と長打力のある打者を揃えた。一番で好打者の松下が出塁し田中以下の攻撃陣が返すパターンができれば本国体出場できる。初戦の三重県戦は総力を上げて戦う。

田中主将

昨年の経験を活かして頑張りたい。初戦の三重県との試合に先ず勝って、全員で秋田に行きたい。

少年女子組み合わせ

